

製品名: PKC α (リン酸化 Thr638) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05255**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	76kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKCA
別名	PRKCA; PKCA; PRKACA; Protein kinase C alpha type; PKC-A; PKC-alpha
遺伝子 ID	5578.0
SwissProt ID	P17252
免疫原	抗血清は、Thr638 のリン酸化部位周辺のヒト PKC α 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 606-655

背景

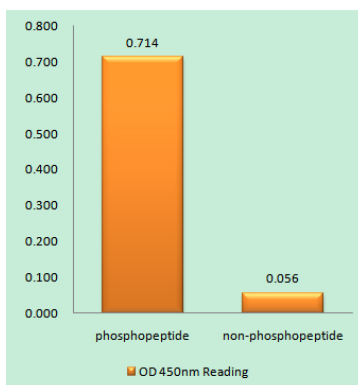
プロテインキナーゼ C (PKC) は、カルシウムおよびセカンドメッセンジャーであるジアシルグリセロールによって活性化されるセリ

ンおよびスレオニン特異的プロテインキナーゼのファミリーです。PKCファミリーのメンバーは、多種多様なタンパク質標的をリン酸化します。また、多様な細胞シグナル伝達経路に関与することが知られています。PKCファミリーのメンバーは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの主要受容体としても機能します。PKCファミリーの各メンバーは特定の発現プロファイルを持ち、細胞内で異なる役割を果たしていると考えられています。この遺伝子によってコードされているタンパク質は、PKCファミリーのメンバーの1つです。このキナーゼは、細胞接着、細胞形質転換、細胞周期チェックポイント、細胞容積制御など、さまざまな細胞プロセスで役割を果たすことが報告されています。マウスのノックアウト研究では、このキナーゼが心筋細胞における心臓収縮力とCa(2+)処理の基本的な制御因子である可能性が示唆されています。[RefSeq 提供、7月2日] 触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: サブユニットあたり3個のカルシウムイオンを結合します。これらのイオンはC2ドメインに結合します。機能: PKCはジアシルグリセロールによって活性化され、様々な細胞タンパク質をリン酸化します。PKCは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの受容体としても機能します。機能: これはカルシウム活性化、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的酵素です。CSPG4をリン酸化することにより、細胞運動に関与する可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。PKCサブファミリー。類似性: AGCキナーゼC末端ドメインを1つ含む。類似性: C2ドメインを1つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。類似性: ホルボールエステル/DAG型ジンクフィンガーを2つ含む。サブユニット: ADAP1/CENTA1、CSPG4、およびPRKCABPと相互作用する。ホスファチジルセリン存在下でSDPRに結合する。

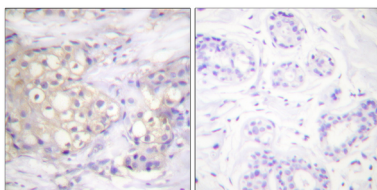
研究分野

微小管調節; アクチンダイナミクスの調節; 幹細胞経路; インスリン受容体; ErbB/HER; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; WNT; WNT-T細胞; β-カτεニン; B細胞受容体; PI3K/Akt; mTOR; AMPK

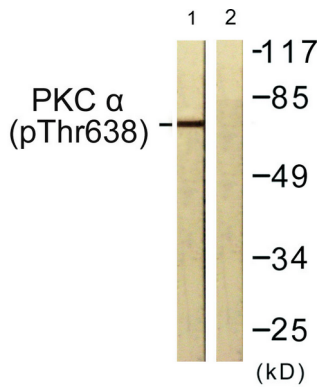
画像データ



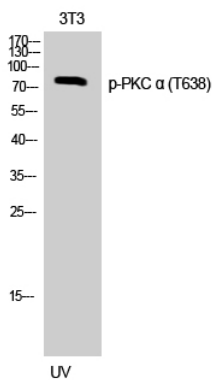
PKC α (リン酸化 Thr638) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PKCα (リン酸化 Thr638) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 15' 処理した NIH/3T3 細胞のライセートを PKC α (リン酸化 Thr638) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 PKC α (T638) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析